

新型コロナウイルス感染拡大の影響で「北海道緊急事態宣言」、地域の小学～高校が休校しているため、スタジオでのレッスンはできない状態です。そのため、当スタジオでは会議アプリを使ったオンラインレッスンをしております。その様子を新聞で紹介いただきました。大人は19日まで子どもは24日までスタジオでのレッスンを中止しております。

掲載は函館新聞3月9日付 函館新聞のウェブ版でも掲載してます。



ネット活用しレッスン



両親の職場でタブレット端末を見ながら土曜日（7日）午後のレッスンを受ける後藤すずかちゃん



生徒にレッスンを届けるカメラなどが置かれたRダンスカンパニーのスタジオ

にオンラインレッスンやっている「正確な」一方、マイクの位置やスピーカーからではなくパソコンに音楽を入れて使うなら、デバイスを受け、「毎日反響」と山崎主宰。20年間のスタジオ開設時の苦労などを思い返すという。市内で他の教室では9日から再開や、1度もレッスンを休んでいないが小・中学生は来ていないなどの情報を聞いたが「道の緊急事態宣言や函館市の臨時休校期間を踏まえる」と言い切る。オンラインレッスンは同スタジオ以外で八雲、厚沢部の生徒も受ける予定。山崎主宰は「アドバイザーをもらったり、準備やレッスンを協力してくれるスタッフ、オンラインを喜んでくれる保護者らに感謝しかない」と話し、「私はまだ恵まれている。フリーランス仲間や他業種の自営業者には新型コロナウイルスの影響で困っている人が多い。その人たちのために政府はどのように休業補償するのか明らかにしてほしい」と訴えた。

Rダンスカンパニー

休校対策で試行錯誤

初の取り組み
同スタジオでは約60人が在籍し、ジャズダンス、ヒップホップなど月曜から土曜まで計11クラスを行う。このほか、北斗市、七飯町、八雲町、厚沢部町で子どもを対象に教室も外部講師としてレッスンをしている。新型コロナウイルスの影響で4月18日から取りやめ、大人は今日19日まで、高校生以下は同じく24日までスタジオでのレッスンを中止を求めた。

今月9日、山崎主宰が通院先の医師とスタジオの状況を話し合った後、医師から「Zoom」を紹介された。「レッスンができず自営業者としては死活問題。なんとかしては死なない」とオンラインレッスンを実行し、生徒や保護者にメールなどで使用するアプリの使い方、マニュアルを作成、パソコンに接続するカメラやマイクはスタッフから借り、4日はミーティング、5日から

スタートという早業。山崎主宰は「4日はうまくいくか緊張で寝られなかった」と話す。スタジオは約70平方メートル。各レッスンでは15〜25人程度集まるが、オンラインレッスンでは講師のみと教員1名、スタッフ2名で対応している。スタートの前日は4日、スタッフはカメラやアプリの使い方の確認に追われた

保護者も感謝
スタッフが指導するレッスンの様子を見守る保護者からは「いつもと同じ感覚で参加できるのはありがたい」と喜ぶ声も聞かれた。「最初は不安だったが、徐々に慣れてきた」と話す。保護者の声も届くように、講師の声を小さくして、生徒の動きを大きく取り上げるように調整している。

新型コロナウイルス感染症対策が全面で実施される中、函館市末広町のダンススタジオ「Rダンスカンパニー」（山崎主宰）では、生徒の大部分を占める小・中学生、高校生が休校中不要不急の外出を控えている下を受け、オンラインで行うビデオ会議等アプリケーション「Zoom」でレッスンを再開している。初めは「Zoom」を使ったレッスンを「Zoom」で始めるための取り組み、家庭の事情でレッスンを休むという生徒もいて、試行錯誤の日が続いている。

「Zoom」から「開始10分前です」の通知が来ると、生徒は各自の準備を整え、画面が映し出され、出席を確認する。保護者の仕事関係でインターネットやスマホのない祖父に預けられているため、7日午後のレッスンは後藤すずかちゃん（6）が両親の勤務先である飲食店の一角でタブレット端末を眺めてダンス。店も客足がめっきり減ったことで部屋を使うことができ、新型コロナウイルスの影響がさまざまな所へ波及している。

高くとび「なごみ」の音と音源が好反応という。音源は「なごみ」と同じく、音源が音源から音源へ音が流れていくように聞こえる。音源は音源から音源へ音が流れていくように聞こえる。音源は音源から音源へ音が流れていくように聞こえる。

生徒のアプリ接続状態やレッスンの様子を確認する山崎主宰（左）とスタッフの小松秋美さん。動きが合っていない生徒には声掛けすることも

